

## 【日本の大学】第 59 回——大阪公立大学：統合で飛躍、高度人材の養成図る

大阪市立大学と大阪府立大学が 2022 年 4 月に統合して大阪公立大学が誕生した。母体となった大阪市立、府立の両大学はいずれも 140 年もの歴史を重ねてきており、新大学は、そうした伝統を引き継ぎ、幅広い学問領域を擁する、学部学生だけで約 1 万 2 千人の全国最大規模の総合公立大学となった。両大学がこれまで培ってきた少人数で質の高い教育を継承し、研究を通じた学びによって専門的な知識・技能を習得することを目指す。

新大学はその使命として、大阪から日本や世界の成長を牽引する大学となることを目標にするとともに、学生・教職員が自由闊達な環境で教育を行っていくとしている。基幹的な教育と高度な専門教育を有機的に結び付けた複眼的な視点を持ってあらゆる問題を俯瞰的かつ直感的に見通す力を培うことによって、グローバルに活躍できる高度人材を養成する。

以下、新大学や市立大学、府立大学のホームページを参考にしながら、これまでの歴史と今後の展望をみていこう。



杉本キャンパス 1 号館

市立大は五代友厚らが創設

大阪市立、府立両大学ともに、その淵源をたどると明治時代前期の1880年代までさかのぼることができる。

市立大学は、「近代大阪経済の父」と言われる五代友厚をはじめ当時の大阪財界の実力者16名によって1880年に創設された「大阪商業講習所」が源流。五代は大阪商法会議所（現大阪商工会議所）や株式取引所（現大阪証券取引所）の生みの親でもあるが、「欧米先進国と対等に渡り合うには、商人にも学問が必要である」と説き、商業教育機関である私立の商業講習所を設立した。

1901年には、「市民自身の手で高等商校を」という大阪市民や同窓生の熱意や要望の中で、「市立大阪高等商業学校」へ昇格した。さらに、都市計画学者でもあった当時の関一（せき・はじめ）市長が「大学は都市とともにあり、都市は大学とともにある」との主張の下で熱心に大学の設立を働きかけ、1928年には単科大学ながら、市立大学「大阪商科大学」が誕生した。

大戦後、学校制度の大改革によって新制の「大阪市立大学」が発足したのは1949年である。大阪商科大学のほか、大阪市立都島工業専門学校、大阪市立女子専門学校を統合し、総合大学としてスタートした。当初は、商業講習所の伝統を受け継いだ商学部、経済学部や法文学部、理工学部、家政学部の5学部体制だった。市立大学は、「優れた人材の育成と真理の探究」を掲げ、市民の誇りとなり、市民に親しまれる大学を理念として掲げてきた。

市立大学はその後、法文学部を法学部と文学部に分離。1955年には大阪市立医科大学を編入して医学部を設置し、さらに59年には理工学部を理学部と工学部に分離独立した。これにより、8学部の体制となった。



阿倍野キャンパス医学部

## 府立学校を統合・再編し府大に

大阪府立大学の始まりは 1883 年に設置された「獣医学講習所」とされる。5 年後に大阪府立農学校となり、そのほか大阪府下にあった官立大阪工業専門学校、府立化学工業専門学校、獣医畜産専門学校など旧制の七つの専門学校を母体として大戦後の 1949 年に浪速大学となった（1955 年に大阪府立大学（旧）に改称）。

この府立大学と、1949 年に始まった大阪女子大学、1994 年設置の大阪府立看護大学の府立 3 大学が、2005 年に統合・再編されて新たに大阪府立大学が設置された。発足当時は、工学部、生命環境科学部、理学部、経済学部、人間社会学部、看護学部、総合リハビリテーション学部の 7 学部体制だったが、2012 年にこれらを束ねて現代システム科学域、工学域、生命環境科学域、地域保健学域の 4 学域へと再編された。

府立大学では理念として「高度研究型大学—世界に翔く（はばたく）地域の信頼拠点—」を掲げ、進取の気風を持ち常に新しいものにチャレンジし、自分の周りに垣根を作らず「つながり」を求めて活動してきた。





羽曳野キャンパス

## 両大学の特色を受け継ぐ

21 世紀に入って、少子高齢化が急速に進む中で、全国的に国立大学や私立大学の間で、再編や統合を進めようとする動きが見られるようになった。大阪市立、大阪府立両大学の統合構想も、そうした環境の中で、検討が進められてきた。2012 年には外部有識者による「大阪府市新大学構想会議」が両大学に設置され、翌 13 年に、両大学で「新大学案」が策定された。その時点のスケジュールでは、2016 年度に統合開学を目指していたが、13 年 11 月の大阪市議会で統合関連議案が否決され、開学は 22 年に延期されることとなった。

2019 年 4 月には、府立大学、市立大学の両法人が合併して「公立大学法人大阪」が設立され、準備が進められた。

新しい大阪公立大学は、市立大学にあった 8 学部・10 大学院研究科と、府立大学の 4 学域・7 大学院研究科を、学部や学域の特色を残す形で、1 学域・12 学部、15 研究科の体制でスタートすることになった。即ち、現代システム科学域と、学部は文学部、法学部、経済学

部、商学部、理学部、工学部、農学部、獣医学部、医学部（医学科）、医学部（リハビリテーション学科）、看護学部、生活科学部である。

市大、府大の組織を足し合わせたことによる重複感が見られるが、一方で、両組織が融合することによって教育や研究分野へのさまざまな相乗効果が期待されている。例えば、工学部は機械、建築から航空宇宙、海洋、バイオ化学まで、フルスペックの学びがそろろう。

現代システム科学域は、府立大の学域を引き継いだもので、知識情報システム学類、環境社会システム学類、教育福祉学類、心理学類の4学類を設けている。1年次には学域共通科目を学び、2年次にはそれらを踏まえて自分に合った学類を選択する。



中百舌鳥キャンパスに立つモニュメント「プロセス」。大学における人格の形成、真理の探究、研究の過程を象徴する

文学部は市大の文学部を受け継いだもので、哲学歴史学科、人間行動学科、言語文化学科、文化構想学科の4学科からなる。

経済、商、法3学部は、市立大学の各学部と府立大の現代システム科学域のマネジメント学類を融合したものだ。商学部は、商学科と公共経営学科があり、少人数でのゼミナール制度を採用し、教員との密接で徹底的な討論を通じて自分の頭で物事を考え、明確に表現でき

る能力を養う。経済学部も1年次から卒業まで一貫した少人数教育が特色である。1年前期には「基礎演習」を履修し、文献購読や小論文作成、プレゼンテーション、少人数での討論の方法を学ぶ。2年次以降も「論文演習」「専門演習」と続き、自らテーマを選び、卒業論文を作成していく。

医学部医学科は1944年に設立された大阪市立医学専門学校が始まりで、市立医科大学を経て55年に市立大学に編入された。キャンパスは阿倍野にあり、1998年に新学舎が完成した。基礎医学部門に関連した実習設備、臨床実習前に模擬的に医療体験し、実習を行う施設などが充実している。

医学部リハビリテーション学科は、主に府立大の地域保健学域の総合リハビリテーション学域を引き継いだ。羽曳野にキャンパスがある。また、看護学部は、市立、府立両大学の看護関係学科（学類）を受け継ぎ、融合して誕生した。

生活科学部は1949年に市立大学が設立された際の女子専門学校が母体となっており、それに、府立大学地域保健学域の総合リハビリテーション学類・栄養療法学専攻が加わったものだ。食栄養学科、居住環境学科、人間福祉学科の3学科からなっている。

府立大学からつながっているのが、農学部、獣医学部である。農学部は応用生物科学科、生命機能化学科、緑地環境科学科の3学科で構成されている。獣医学部は関西唯一の獣医学教育機関であり、近畿圏内の動物診療機関や自治体と連携することによって獣医師が活躍する現場を体験する参加型教育を実施している。





くすのき広場

## 2025 年に新キャンパスが完成

キャンパスは、府立大学、市立大学が合併したため、各所に散在しているが、2025 年には大阪市城東区森之宮に計画されている森之宮キャンパスが完成する予定で、その際には、約 7000 人が集うメインキャンパスとなる。大阪府・市の「スマートシティ戦略」と連携した地域に信頼される「知の拠点」を目指す。

現在、キャンパスは大阪府内 5 カ所にある。市立大学の本部があった杉本キャンパス（大阪市住吉区）には、文学部、法学部、経済学部、商学部、理学部、工学部などの学部・施設が入っている。医学部の医学科、看護学科、附属病院のあるのが阿倍野キャンパスであり、現在、公立大学の本部が置かれている。府立大学だった中百舌鳥キャンパスには、府立大から引き継いだ学部の多くが入っている。このほか、羽曳野キャンパス、りんくうキャンパスや、大阪駅前には梅田サテライトキャンパスがある。

新大学は 1 年次前期を全学必修科目として、全学部・学域から自分が興味のあるテーマを選んだ少人数の学生が研究を進める初年次ゼミナールを導入する。学部の枠を超えて多様な学生が一つのゼミに集まり、あるテーマについて協力して研究する。外国語教育にも力を入れ、1、2 年次に少人数の必修科目を開設、専門分野で活用できる英語運用能力の育成を

目指す。英語以外の外国語（独、仏、中、露、韓）から1言語を必修科目として学ぶ。

大学ランキングの中で、大阪市立大学に対する「国際性」の評価はあまり高くはなかったが、府立大学と一緒に、大阪公立大学として「国際人材の育成」を大きな柱として掲げている。

学術交流協定は、42 개국・地域の 232 大学・研究機関と結んでいる。(2022 年 4 月現在) 海外拠点是中国(上海オフィス)、タイ(バンコクオフィス)、ベトナム(ハノイオフィス)にある。

大学では、学業に精励する私費留学生に対し、経済的理由のため授業料を納付することが困難な学生に対して、いくつかの条件付きで授業料を減免又は免除する制度がある。外国人留学生に対し、先輩学生(チューター)が日本語能力の向上を含む学習・研究・生活などの個別支援や助言を行う制度がある。留学生との日帰り研修旅行や文化紹介イベントなど、大小さまざまな交流行事も行っている。留学生と日本人学生が共同生活する国際交流会館では、異文化交流を活発に実施していく。



学術情報総合センター

学生数は、統合前の段階で府立大学は学部が 5902 名、大学院が 1803 名、教員数は 643 名



(常勤)、市立大学は学部が 6554 名、大学院が 1739 名、教員数は 730 名 (常勤) である。

新学長には辰巳砂 (たつみさご) 昌弘氏が就任した。大阪大学工学部応用化学科を卒業し、1980 年に同大学院博士前期課程修了、大阪府立大学工学部助手となり、その後、講師、助教授、教授。工学博士。同大学院工学研究科長などを経て 2019 年大阪府立大学の学長、22 年 4 月から大阪公立大学学長。専門は無機材料化学、固体イオニクス、ガラス科学。

日文：滝川 進

写真：大阪公立大学 HP&FaceBook